

5
May.衛生
トピックス

今月のテーマ：

令和2年食中毒発生状況

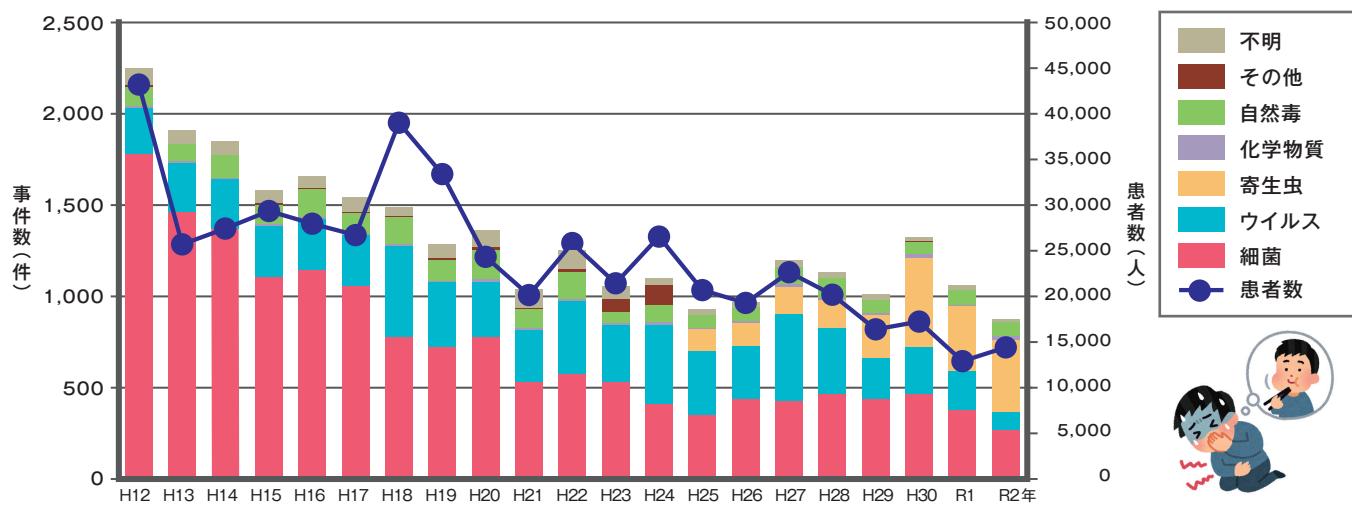
令和2年の食中毒発生状況*が、3月22日に厚生労働省の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会食中毒部会において報告されました。今月は、その概要についてご紹介いたします。

*令和2年1月～12月までに発生し、食品衛生法第58条に基づき、都道府県知事等から厚生労働大臣に報告のあったものを取りまとめたもの。

■ 事件数は過去20年で最少

令和2年に発生した食中毒事件数は887件で前年の1,061件より174件減少し、この20年間で最も少ない発生となりました。患者数は14,613人と例年並みで、前年の13,018人に比べると1,595人増加となりましたが、前年に次いで2番目に少ない人数となっています。

食中毒発生状況の年次別推移(過去20年間:平成12年～令和2年)



*食中毒事件票の病因物質の種別欄で「その他」として報告されていた寄生虫は、平成25年より、「クドア」「サルコシスティス」「アニサキス」及び「その他の寄生虫」と報告されることとなりました。

■ 患者数500人以上の食中毒は3事例

患者数が500人以上の大規模な食中毒は3件発生しました。6月に埼玉県で発生した事例は弁当形式の学校給食で、汚染原因としては、病原物質が付着した原料を最終加熱工程のないメニューに供したことと、温度管理が不十分な状況下での前日調理が推察されています。

発病日	原因施設 都道府県	原因施設 種別	原因食品	病原物質名	患者数	摂食者数
6/26	埼玉県	飲食店	海藻サラダ	病原大腸菌O7H4	2,958人	6,762人
8/28	東京都	仕出屋	不明(仕出し弁当)	毒素病原性大腸菌O25	2,548人	37,441人
12/21	山形県	仕出屋	不明(当該施設が調製した弁当)(推定)	ノロウイルス	559人	1,983人

■ 死者が発生した事例

死者が発生した事例は3件で、いずれも家庭で発生した自然毒による食中毒であり、死亡した3人は高齢者でした。

発病日	原因施設 都道府県	原因施設 種別	原因食品	病原物質種別	患者数	死者数	摂食者数	死者年齢
1/31	鹿児島県	家庭	グリオサ球根(推定)	植物性自然毒	1人	1人	2人	男:70歳~
8/2	栃木県	家庭	野生のキノコ(種類不明)	植物性自然毒	2人	1人	2人	男:70歳~
10/13	徳島県	家庭	ふぐ(種類不明)	動物性自然毒	1人	1人	1人	男:70歳~

■ 病因物質別の食中毒発生事件数・患者数ワースト3

病因物質が判明した事例のうち、事件数が最も多かったのはアニサキスで386件（前年より、58件増）、2番目に多かったのはカンピロバクターで182件（104件減）、3番目がノロウイルスの99件（113件減）となり、この順位は前年と同じでした。

患者数は、腸管出血性大腸菌以外の「**その他の病原大腸菌**」が6件発生し、そのうち2件は2,000人を超える大規模食中毒であったため、6,284人と最も多くなりました。例年最も患者数が多いノロウイルスは、前年より3,229人減少の3,660人で、事件数、患者数共に前年の約半数となりました。

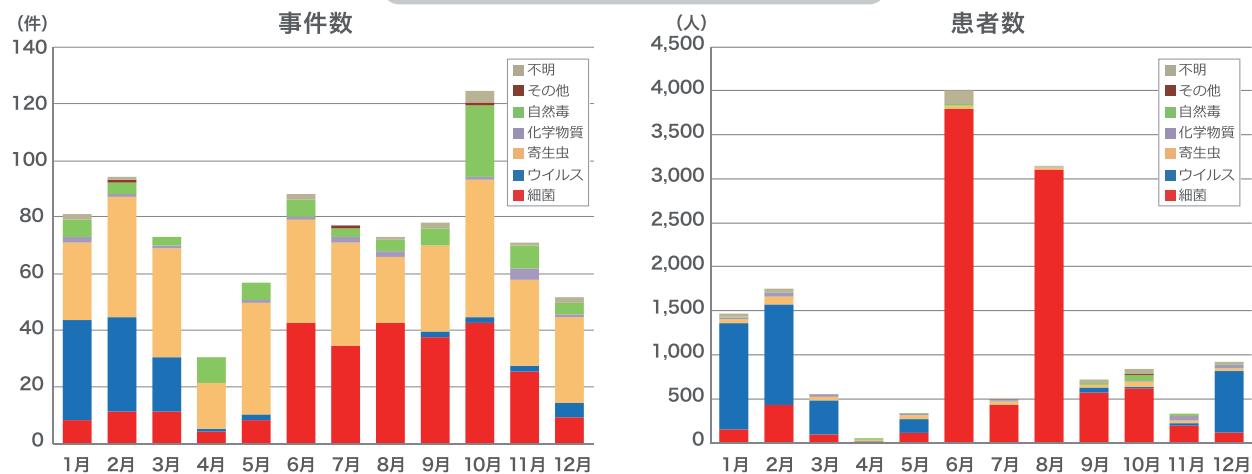
令和2年 病因物質別食中毒発生状況

	事件数	患者数
1 アニサキス	386件	その他の病原大腸菌 6,284人
2 カンピロバクター	182件	ノロウイルス 3,660人
3 ノロウイルス	99件	ウエルシュ菌 1,288人

■ 月別食中毒発生状況

4月7日から5月25日まで、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発出されていたことにより、**4月、5月は事件数、患者数共に例年に比べ減少しました**（前年に対し、4月:事件数72.0%減 患者数96.2%減、5月:事件数43.4%減 患者数68.1%減）。6月と8月に細菌による食中毒の患者数が多くなっているのは、その他の病原大腸菌による大規模食中毒の発生が影響しています。ノロウイルスによる食中毒は11月頃から増加しはじめ冬季に多発しますが、12月は例年のような増加傾向の伸びが見られませんでした（前年に対し、12月:事件数44.6%減 患者数48.9%減、ノロウイルス食中毒のみでは事件数82.1%減 患者数52.0%減）。

令和2年 月別食中毒発生状況

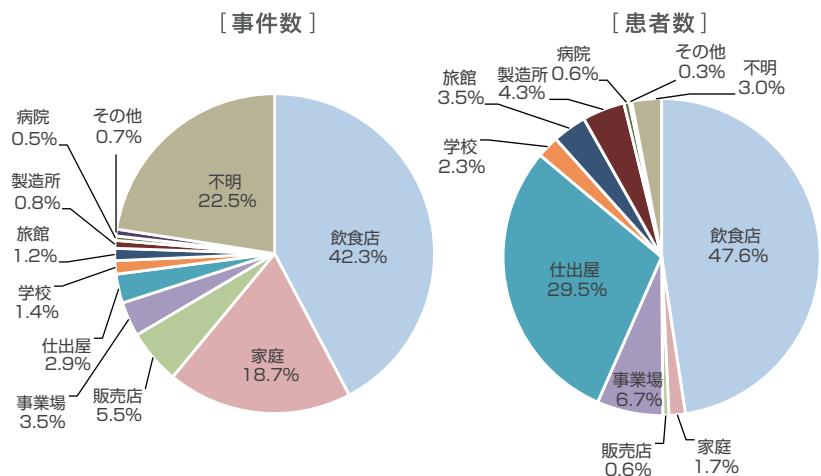


■ 原因施設別食中毒発生状況

原因施設が判明した事例のうち、事件数では**飲食店が375件（前年に対し、35.3%減）**と一番多く、次いで、家庭166件、販売店49件、事業場31件、仕出屋26件の順となりました。

患者数においても飲食店が**6,955人（前年に対し、4.6%減）**で最も多く、次いで、仕出屋4,310人、事業場984人、旅館508人、学校331人となりました。事件数と比較すると、大規模食中毒の影響で仕出屋の割合が多くなっています。

令和2年 原因施設別食中毒発生状況



【参考資料】

・令和3年3月22日 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会食中毒部会「資料1 令和2年食中毒発生状況(概要版)」「資料3 埼玉県内の学校給食で発生した病原大腸菌による集団食中毒について」
・厚生労働省食中毒統計資料